

「本気」で語ろう会 会議録

団体名	転勤奥様講座
日時	平成 28 年 2 月 9 日（火）10 時 30 分から正午まで
場所	鹿屋市中央公民館 第 3 講座室
参加者	転勤奥様講座 10 名
	市長、市長公室長、保健福祉部長、中央公民館長、広報広聴課長
1 鹿屋市での生活について	
2 その他	
<p>市長：本日は、転勤族の皆さんから見た鹿屋市について色々厳しい意見をもらうかと思っていたが、先ほどの皆さんの自己紹介の中でのお話を聞くと、鹿屋市は良いまちと評価していただいているようで安心した。</p> <p>私は、2 年前に鹿屋市長に就任したが、元は県の職員であり、在職時は異動で奄美やさつま町など転勤して回った。転勤した先では、地域の皆さんと会合やスポーツなど色々なふれあいがありたくさんの思い出がある。皆さんも、初めて鹿屋市に転勤して来られた時は不安もあったとは思いますが、楽しく過ごしてもらえればと思う。</p> <p>私は、“もっと身近な” “もっと熱い” “もっと分かりやすい” 市政運営を心掛けており、その実現に向けた取組の一つとして「市民の声直行便」を実施している。今年も市民から 90 件程度の直行便が届いている。内容は苦情が多いが、そういった声も含めて、着実に対応していくことが大事であると考えている。</p> <p>また、本日の会でもある、市民の皆さんと私が本気で語り合う「本気で語ろう会」を開催している。これまでも、体育大学の学生さんや、高校生、子育て世代のお母さん達、高齢者の方々など、色々な声を聞いており、皆さんの声を地域の発展に繋がりたいと考えている。</p> <p>皆さんも、今日は思いのたけを語っていただきたい。</p> <p>提案：私は、現在高須に住んでいる。鹿屋市全体で高齢化が進んでおり、親の世話など、自分が 60 代の時は可能であるが、自分の子ども達が県外に出ていることもあり、いざ自分が 80 代になったときはどうなるか不安である。西原や寿に住んでいれば、まだ賑やかさはあるのだが。</p> <p>また、交通事故対策について、車で買物に出ると、どこが停止線であるのか路側帯がどこなのか分からないことがある。今は車社会であり、85 歳でも 90 歳でも車を運転するので、線引き等きちんとして見え易くすれば、少しでも交通事故が減るのではないか。</p> <p>回答：全国的に益々高齢化が進んでいるが、現在 4 人に 1 人が高齢者であり高齢化率が 26% である。これが、近い将来 3 人に 1 人が高齢者となり、支える側が少なくなっていく。国勢調査で鹿屋市の状況を見ると、5 年前は 105,000 人の人口であったが、今回の調査では 103,600 人程度になると見られており、この 5 年間で 1,400 人程度減ったことになる。実は、鹿屋の中心部は人口が増えているが、鹿屋地域の周辺部や吾平、串良、輝北地域ではだいぶ減っている。</p>	

高齢者のケアについては、地域包括ケアで取り組むこととなっているが、施設から在宅への流れの中で、どうサポートするのか。1人世帯や夫婦世帯の高齢者が多く、医療機関との連携や地元のサポート体制、地域も高齢化する中で支える人たちをどう育てるのが課題である。NPOなどの志のある方々を如何に支援して、組織として作っていくかが大事である。

交通対策について、高齢者の中には、信号が赤でも青でも関係なく渡る方がおり、中々交通ルールを守ってくれない。運転する側が交通弱者に気配りしながら運転しないといけないが、高齢の運転者の中には道路を逆走する方もおり、もらい事故にも気をつけないといけない。対策としては、高齢者に早く免許を返納してもらう方法があり、くるりんバスや、バス・タクシー券の発行は、そのためのサポートの一つでもある。買物弱者や交通弱者に対するサポートや目配りをしないといけないと考えている。

また、高須地区に住んでいるとのことであるが、古江から永小原にかけての海岸線は鹿屋の宝だと思っている。菅原小の跡地など素晴らしいロケーションであり、ここを活用し海岸線の再生に取り組んでいきたい。

提案：鹿屋の素晴らしいものとして、美味しいものや戦跡があると思うが、これが知られていないように思う。先ほど市長から話のあった海岸線や観光のこと、紅はるか、落花生、カンパチ、黒豚などの食材のことなど、よその地域にアピールできれば良いと思う。

転勤奥様講座は、子供を連れてでも受講できるので、講座で鹿屋のことを勉強した人たちが、鹿屋の良さを外の地域にも伝えていけると思う。

回答：鹿屋は食の宝庫であり、カンパチソングやダンス、シティセールスなどでカンパチと共に鹿屋を売っている。かのや豚ばら丼も一生懸命取り組んでいる。

また、売ることについて、農家の皆さんは作るのはとても上手だが、宣伝が苦手である。売るためには、品質の均一化と維持、量の確保が欠かせないことと、ブランディングが大事であり、ものづくりにおいて、農家さんは自分の思いで作っているので、ある程度の基準を作り守ってもらうことが必要である。消費者に商品が届いたとき、一定の品質が保てないと二度と買ってもらえない。

食材については、皆さんが鹿屋から転勤した後も取り寄せてもらえると嬉しい。何が美味しかったか。

提案：カンパチ。ピーナツが美味しかった。

提案：鹿屋にきてから初めて味わったが、素晴らしい食材が多い。

提案：新聞を見ると子供はたくさん生まれているが、鹿屋には産科が少ないと思う。

鹿屋市に転居したら子育てが楽だよとなれば、人口も増えるのでは。産科を増やすことと、子育てが楽しめる場所があれば良いと思う。

回答：産科は、市内に民間が3か所と県の医療センターがあり、ハイリスク分娩に

については医療センターが対応するなど、すみ分けをしている。分娩については、鹿屋市民だけで年に1,100人程度。他の周辺市町も入れると1,400人程度あり、民間の3病院の4人の先生で、1人につき年間300人から400人取り上げていることになる。国の基準が1人の先生につき150人なので、非常に過酷な状況である。

昨年、4市5町の首長や議長で会を持ったが、新年度に向け予算措置して、鹿屋に帰って来る医者 の 獲得や、大学からの研修医を送ってもらえないか取り組んでおり、良い話ができるように頑張っていきたい。また、分娩となると、産科医だけではなく小児科や麻酔科もセットで考えないといけない。一生懸命取り組んでいくので、結果がでるまでもう少しお待ちいただきたい。

提案：私は10年程前まで鹿屋市に住んでおり、私が転出する直前に中心市街地の活性化が始まった。その時はショッピングモールのようなものができるのだろうと漠然と考えていたが、最近鹿屋に帰ってきて市街地を訪れてみると、リナシティができていた。中に入ろうと思ったが、一周してみても入口が分からず、結局その日は帰った。施設に配置図がはってあったが、「こちらが入口」など、そこを通ったら分かるように案内してあれば利用し易くなると思う。

回答：リナシティかのやは、いわゆる再開発ビルである。あの場所には、古い平屋の建物があったが、もし、それが今残っていることを想像すれば、リナシティの建設は政策としては間違っていなかったと思う。

通常、再開発ビルは、元々そこにいた人たちが再度入る。リナシティでは現状で入っていないが、1階については個人の持ち物であり市の持ち物ではない。

構想段階では、上の階に分譲マンションやホテルという案もあったが、要は市民の皆さんが行きたいと思う施設にしないといけない。皆さんの声を聞けば、百貨店や、ラウンドワンのような遊び場があれば良いとの要望もあるし、図書館や本屋さんなど色々な声を聞くが、実際に出来上がってから中身を入れ替えるのは中々難しい。

市の職員に休日はどこに行くかと聞くと、都城のイオンに行くと言う。イオン内に色々な店舗があるので、一日遊ぶことができるということである。ただ、一施設で全てできると、商店街が廃れてシャッター街が増えていくことになるので、それをどう再生するか、市だけでなく、そこで活動している人たちと一緒に考えていかなければならない。市民のライフスタイルの変化や流れもあるので、その時代に合った取組をしないといけない。

例えば、地元の小さな電気店が潰れないのは、アフターフォローをしっかりと行い、何かあったらすぐに呼ばれるような体制を作っていることが挙げられ、高齢化が進む中でも頑張っている。また、お菓子屋さんも街中に何か所もあり頑張っている。やり方によっては、色々できるのではないかと考えている。

皆さんは、「KITADA SARUGGA」には行かれたか。かのやんが一るという女性の皆さんが企画し運営している。軽食やデザートなど色々あるので、ぜひ行っていただきたい。

提案：かのやばら園の状況はどうなっているか。

回答：かのやばら園も市民の関心が高い。バラは年に2回咲くが、秋バラは咲かせるのが難しい。無料の施設なら良いかもしれないが、有料の施設なのできちんとした対策をとらないといけない。

また、今後、バラだけで運営していくのは難しい。今、民間から色々提案を受けており、物販や飲食について選定している。もう少し多様な遊びができるように、通年で遊べるような公園を作りたい。今後を楽しみにしていただきたい。

提案：指定のごみ袋について、夫婦2人なので小袋でも大きい。熊本に住んでいたときは、小の下の特小があった、使い勝手が良かったので、鹿屋市でもぜひ検討していただきたい。

回答：私も一人で生活していたとき、袋がスカスカでもったいないと思っていた。ごみがたまるまで袋を取っておく手もあるが、臭いもするので難しい。特小袋の要望があるのか色々聞いてみたい。

提案：バスの時刻について、空港バスの時間が変わったとき、ネットで見た時間と実際の時間が違った。変更があった際はすぐに反映させてほしい。

回答（市長公室長）：市のホームページについてはすぐに対応しているが、それぞれの民間のサイトで、そういった事実があったことは聞いている。時間の変更等で気付いたことがあった際は、いつでも言ういただければ市からも願います。

提案：ビッグウェーブ等の情報紙にも時間は掲載されているので、市の広報誌にも掲載すればよいのでは。

また、子供達を鹿児島空港に送ると、子ども達が帰りつくより自分達が鹿屋に帰って来るほうが遅い。高速道路はできたが、自分達の場合は海岸線を通ったほうが近い。

回答：居住地域によって利便性は違うと思うが、災害のときなどを考えると複数のルートがあったほうがよい。また、高速を使うと到着時間が読みやすいというのは大きいと思う。例えば、空港に行くとき下道を通ると、霧島市街地を通るときの渋滞などにより時間が読めないことも多い。

提案：お年寄りが1人暮らしをしていると、具合が悪くなったときに1か所でも連絡できる場所を確保できていれば、少しでも安心できると思う。

回答：緊急事態が想定できる状況であれば、連絡先など自分で確保し、できない時は町内会や民生委員に願いますなどしないといけない。地域の中でうまく生きていくためにも、声掛けする人たちを構築していかないといけない。

給食サービスや金融機関も個人宅を回るので、見守ってもらえると思う。地域みんなが奄美で言う「結」の精神があると良いのだが。

提案：知り合いに入退院を繰り返している人がいて、親兄弟もいるようだが付き合いが無いようだ。その人は近所でも仲間はずれであり、私は、夜照明がついているかどうかで安否を確認している。また、先日国勢調査で回ったが、個人宅が多いようだ。

回答：市の職員にも言っているが、自分の親をみるのは子供の義務だと思う。県外等にいる人でも、自分の親を地域に丸投げするのではなく、実家に帰った時は近所の人や民生委員さん等に挨拶してお願いすることも大切だと感じている。その上で、独居している人が孤独死しないためにも、そういった地域の人たちが見守ることが必要である。

回答（保健福祉部長）：その取組として、地域見守り隊を結成している。参加してくださるメンバーも少しずつ増えているので、地域の見守りを頑張っていきたい。

提案：寿に住んでいるが、自分が住んでいる町内会では、名前や飲んでいる薬などの情報を封入するための筒が配布された。この筒を冷蔵庫に入れることで、緊急の際、誰にでも居住者の情報が分かる仕組みとのことだった。

回答（保健福祉部長）：この筒については、市でも 2,000～3,000 個用意しており、高齢で支援が必要と思われる方に配布している。

提案：ハローワークで求人を見たが、鹿児島は全体的に賃金が安いと思う。昔住んでいた市は鹿屋市よりも人口が少なかったものの、市のパートタイムで自給 850 円位あった。こちらでは雇用数を増やすためかもしれないが、700 円台である。

回答：市の大きさと給与は一致しないが、鹿屋市でも事務補助員、嘱託、職員と仕事の内容で分けて雇用している。

また、鹿児島県の有効求人倍率を見ると 0.8 程度であるが、求人自体は多い。企業が雇用したくても人が来てくれないのは、確かに給与の問題もあると思う。ただ、雇用者も本当に人が必要なら給与を上げるはずであるが、最近はほとんどが非正規職員になってきており、これが格差社会を広げていると思う。

特に、生活の中心となる人が非正規職員だと家庭の生活が成り立たなくなるので、本市としても、雇用と所得につながる産業づくり・正規職場づくりに取り組んでいるところである。

提案：市役所に行ったとき、必要な書類を見つけ辛い。また、観光で鹿屋に来た人が一目でわかるような地図もあった方が良いと思う。

それから、空き家が目につくが、空き家対策はどうなっているか。

回答：観光マップは確認してみる。

空き家対策については去年から取り組んでおり、危険空き家を特定して、その解体費用に年 30 万円の 50 件分を補助している。通常で解体には 100 万円程度の費用が掛かるようであるが、その一助になればと考えている。

また、国の新たな制度として、危険空き家を放置すると、更地に比べて 1/6 とされていた固定資産税の軽減措置がなくなることになった。

空き家を撤去すると空き地になるわけだが、これも放っておくといけないので、その土地を再生しないといけない。ただ、まずは火事や防犯の意味で使えない空き家の撤去に取り組んでいる。

提案：やねだんに住んでおり、町内の活動でお年寄りの方とも接する機会が多いので、そういった取組を高須などでも行えば良いのではないか。やねだんでは、老人クラブの茶話会など、近所の若い人たちにもお誘いがある。

回答：やねだんについては、会長の一生懸命さとカリスマ性がアイデアを形にしており、県外からも年間何千人と視察に来ている。素晴らしいまちづくりをされているが、第 2 のやねだんは出てこない。他の地域でも、5～10 年かけて作る思いで取り組めばできるかもしれない。

また、コミュニティ協議会において、地域の課題を地域で解決していく取組を市も支援している。地域の皆さんが、地域のビジョンを持って、それに向かって話し合いをしながら取り組んでいく必要がある。

提案：桜島が爆発したが、降灰が酷い時は灰を集めてどこかにおいてほしい。また、ごみステーションで灰を回収してもらえるとありがたい。

回答：火山灰については、市役所や学習センターなどで拠点回収を行っているが、降灰の状況によっては手厚い取組を考えないといけない。

回答：皆さんにお願いがあるが、ぜひ講座の人たちで鹿屋体育大学に行ってほしい。スポーツパフォーマンス棟は世界に誇れる施設だし、学生の練習を見たり、昼食も食堂でとることができる。半日位かけて体育大学を探検してほしい。

市の職員についても、もともと自分のいた地域のことは詳しいが、合併後の他の地域は知らない。自分のまちを大きな視点で見て、もっとアピールできるようにならないといけない。

また、鹿屋市の人口については、今、札元 1、2 丁目、笠之原、旭原、寿 3、4 丁目の北小・東中校区が急激に伸びており、雨水排水対策も追いつかない状況である。それから、居住者からはおいを言われることもある。

提案：においについては、する日としない日がある。雨が降ると大きな排水溝にし尿を流す人がいるようで臭くなる。

回答：これは大きな問題で、鹿屋の雨水排水は、笠之原と王子町に分かれて通り、鹿屋川（肝属川）に流れ込んでいる。

本地域は、日本一の養豚地帯であり排泄物も量が大変多い。豚糞については、ほとんどが水分であるため処理が難しいが、色々な方法を試して臭気対策に取り組んでいきたい。

市長総括：本日は、日頃皆さんが思っている思いを聞かせていただいた。IターンやUターンの皆さんが少しでも住み良いまちになるよう頑張っていきたい。

今後も、皆さんの声を、講座を通じてでも、市民の声直行便などでも良いので行政に届けてもらいたい。私共も、市政が皆さんにとって身近に感じられるように取り組んでいきたい。